「一人ひとりの自立と社会の連帯」の実現に貢献しうる人材の育成

淑徳大学　千葉キャンパス
キャリア支援センター長　松山恵美子

淑徳大学は、社会福祉学部社会福祉学科の単学部単学科の大学として1965年に開学しました。現在は、千葉県千葉市の「千葉キャンパス」には総合福祉学部とコミュニティ政策学部、同市仁戸名町の国立病院機構千葉東病院に隣接する「千葉第二キャンパス」には看護栄養学部、埼玉県三芳町の「埼玉キャンパス」には経営学部と教育学部、東京都板橋区の「東京キャンパス」には人文学部と、6学部11学科を開設しています。

仏教でいう「自利利他」の精神から、社会福祉のあり方を「for him（彼のために）ではなく、「Together with him（彼と共に）でなければならない」とし、これが淑徳大学の理念となっています。その教えに基づき、「共生（ともいき）」の力を身につけ、社会の連帯に貢献できる人材の育成を志しています。

1　一人ひとりと向き合う就職支援体制

本学の4キャンパスにそれぞれ設置されているキャリア支援センター（キャリア支援室）は、淑徳大学就職委員会として同じ目標を持ちつつ、各キャンパスの学科の専門性に合わせた就職支援を行っています。社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成し、卒業時に一人ひとりが納得のいく進路決定となるよう、教職員一体のキャリア支援体制を心がけています。

各キャリア支援センターでは、職員、センター長（教員）と学科の代表教員からなるキャリア支援委員会を定期的に開き、振り返りと今後のプログラムの確認を行い、その内容は学科会で共有され、学科教員からアドバイザークラスの学生（20人程度）へと周知していきます。学生に早いタイミングで就職支援プログラムを伝えておくことは、参加率のアップ、キャリア意識の継続につながります。就職活動に難を抱える学生を割り出す、参加しない学生への個別カウンセリングなど、教職員が一体となり、学生個々と向き合う就職支援体制の充実を図っています。

2　学生が望む職業の選択肢・可能性を広げる

筆者が所属する千葉キャンパスのキャリア支援センターでは、カウンセリング業務のほかに、社会人としての基礎力向上を目的とした入学前から卒業時まで利用できるEラーニング、その他にもインターンシッププログラム、障がい学生の支援、正課外教育などの様々な支援を行っています。

インターンシッププログラムは4月に2・3年生を対象としたオリエンテーションを行い、「身だしなみ講座」「社会人マナー講座」「グループディスカッション講座」など実践的な講座を展開し、学生自身に考えさせることで、より効果的なインターンシップを目指し指導していきます。

障がい学生（身体・聴覚・視覚）についてはインターンシップの受け入れ先、就職先の開拓を含めた支援となります。その他、社会で様々な立場で活躍している卒業生を大学に招き、働き方や業務内容、就職活動についてなどの話を聞く機会の設定です。実際を知ることで、職業の選択肢が広がる学生、あらためて意志を固める学生など様々です。

悩める学生には常時開設している個別カウンセラーへとつなげていきます。その後、インターンシップ報告会、業界研究講座、自己分析講座、面接対策講座、また正課外教育では公務員対策講座、国家資格対策講座といった就職支援プログラムが展開されます。

時代の変化とともに求められる能力や内容が変化し、それにより働き方も多様化しています。また、今後の就職ルールの変化など、学生だけでなく、大学にとっても課題の多い時を迎えます。他者とともに生きていくことの意味を考える教育を受けてきた学生一人ひとりと向き合い、学生にとって悔いのない決定ができる支援を目指し、取り組んでまいります。